

172号
Summer
2025

まごころ

令和7年度日本ケアシステム協会
第33回全国大会 in 福島



全国まごころケアネット



風鈴

CONTENTS

巻頭言 介護事業の成すべき広報戦略

1

孫子老だより ～健康管理はユーモアと笑いで～

2～4

センターだより

5～9

まごころケア旭川

「心がほっこり感謝状」

まごころケア塩釜

「踊って下さり感激でした」

まごころケアサービス福島センター

まごころケアサービス国見センター

「全国大会を終えて」

まごころケア国分寺

「草抜きボランティアさんありがとうございます」

まごころケアにこにこ三豊

「令和七年度日本ケアシステム協会

全国in福島に参加して」

まごころケア屋島やすらぎ

「こいこいクラブの花見会」

まごころケアぼつかぼか川之江

「居場所と手作り、人と人との繋がりが」

まごころケア西春日

「脱水について」

日本ケアシステム協会第33回全国大会イン福島

10～11

記念講演『共生社会を目指す日ケアの実践』

11～14

事例発表「国見・二本松・福島センター」

14～15

大阪・関西万博2025に行ってきました

16

介護事業の成すべき広報戦略



特定非営利活動法人
日本ケアシステム協会
会長 兼間 道子

5月17日、福島市において日本ケアシステム協会の第33回全国大会が開催された。市川一宏先生の記念講演や地元センターの事例発表など、援助を求めておられる高齢者などに対して、良心的で質の高い介護や支援を真摯に提供している言動に揺さぶられた。40年を経た今でも「愛、忍耐、技術」の理念は延々と息づいていて、参会者らは新たなアクションへと突き動かされた。

さて、全国各地の「まごころケアセンター」の現状を見てみると、手前味噌に安堵しているときではない。担い手不足が要因でSOSに応じられないケースが顕在化、今も続いていて打開に向け、模索している。

平成22年に導入された介護保険法は「高齢で体が衰えても住み慣れた自宅で過ごしたい」そんな願いをかなえる、在宅介護の推進を掲げてきた。しかし、昨年の介護報酬減額によって事業所の倒産が過去最多を記録した。在宅介護の1丁目1番地と言われる訪問介護を軽んじているか、そのように言っておきながら在宅介護を諦めたのではないかとさえ感じるほどだ。社会保障の専門家が「今の訪問介護はもう黄信号ではなく赤信号です」と言い、「一昔前では想定できなかった事態」などと愚痴を言いあっているいとまはない。

今、何をなすべきか、ご承知のようにSNSアカウントは業務に欠かせないし、LINEもインスタグラムも日々の暮らしに根づき、手放せなくなりつつある。10年前には想像できなかった。AIやITの進化には目を見張るものがあり、これらでの広報活用は今や不可欠だ。人材確保やSOSのニーズについて、SNSに載せるなど新しい戦略を構築し、何としても改革を急がなくてはならない。

強い危機感をもって、戦略を講じなくてはならないと思う。情報伝達の手法が大きく様変わりしている今日、様々なニーズに応じてPR発信の重要性を認識し、そこにリソースを割けるか否かによって組織の持続性が左右される。

「行動がすべて」、実行することで初めて成就することを忘れてはならない。

まごころ 孫子老だより

健康管理はユーモアと笑いで

みなさま、お元気で過ごして
しょうか。今年の夏も毎年のように
暑い夏になりそうです。熱中症に気
を付けて涼しい場所でお過ごしくだ
さい。

下校中の小学生が雨の中、傘を
持っているにもかかわらず、わざと
ささずに濡れるのもヘッチャラで、
しかも水たまりを蹴飛ばしたり、あ
る子は傘で水たまりの水をすくった
りして帰る児童を見かけることがあ
ります、ある時、車を運転してい
たら下校中の小学校四年生ぐらいの男
児をみかけました、彼は銀色の日傘
を広げていました、男性が日傘をさ
す光景はチラホラと見かけますが、
小学生も日傘を使うようになったの
ですね、日差しを避けるのには効果
的なので広まったらよいなと思いま
した。

幼稚園の年中さんの頃もしくは、
小学校入学前1年半前からランドセ
ルの購入の準備をするを「ラン
活」と言う記事にありました、人
気のランドセルは早々と売り切れ
て、また誰がお金を出すか、どこで
買うかなど検討することが多く、今
では、おじいさん、おばあさんを巻

き込んでのイベントになっているよ
うです、ちなみに子どもを保育園に
入れるために、保護者が行う活動の
ことを「保活」(ほかつ)と言うそ
うです、認可保育園は人気が高く、
その入園を目指して、情報収集、見
学、申請などを早くから進めないと
入園が難しく両親の仕事にも影響す
ることから重要な活動になっている
ようです、今の若い親御さんは大変
だと思えます、少子高齢化で最近の
小学校の運動会も主役の児童より応
援に来る父兄や親戚、おじいさんお
ばあさんの人数が子供の何倍も多い
ところばかりになりました。



出勤途中に必ず止まる交差点の横

が中学校の校門で新入学の時期は
初々しい一年生の登校姿を見かけま
す、ある朝、何気なく校門の方をな
がめていたら自転車通学の女子生徒

が普段よりずっと手前で自転車を降
り、しきりに髪を直している子が大
勢いました。

なんだろうと校門の方に目をやる
と、そこには体格から見て二年生、
三年生のサッカー部のイケメン先輩
が早朝練習が終わった後なのか白色
で赤のラインが目立つカッコいいユ
ニフォーム姿で門前で二列に別れて
登校生徒に挨拶運動をしていまし
た、女子生徒といえども若い女性で
す、学校が見えるか見えない距離か
ら校門辺りの異変に気付いて状況を
判断する能力は、男子生徒にはあり
ません、彼女らは瞬時に身だしなみ
を整えて、少しうつつむきかげんで門
に入っていきます。

まさに青春です、その光景は月に
二回ぐらいのペースでユニフォーム
姿の野球部員、バスケ、バレーと花
形クラブが朝の挨拶運動にかり出さ
れておりました、遅刻する生徒の対
策なのかわかりませんが、イケメン
先輩達が立っている門をくぐる時の
ドキドキ感が伝わってくるような気
がしました。

歳とともに息切れをするように

なったので、何年もお休みしていたテレビ体操をするようになりまして、仕事に出かける前の毎朝10分程度の軽い運動ですが、思っていたよりハードです、加齢と運動不足が原因です。

久しぶりに見るテレビ体操のお姉さんたちの構成が、全員女性だったのが、男女半々になりレオタード姿がシャツと短パンに変わっていました、時代の変化ですね、男性は若いイケメンぞろい、女性はそれなりの容姿のどこかの大学の体育系の方とお見受けします、残念なのがみんなのユニフォームのセンスです、NHKなので派手なことは控えています、という配慮があるのは想像しますが、シャツや短パンの色のコーディネートは、はつきり言ってダサイです、また短パンがデカすぎるのか、イケメンのお兄さんたちが二頭身に見えます、体が全身の二分の一の胴長です、漫画のキャラクターと同じです、大変かわいいような服装です、たぶん制作側はこれでイイのだと思っただけなのでしょうが、それならいっそのこと、これだけAIが発達しているので全部AI画像で作っ

たらどうかと思いましたが、最近のAI動画生成技術は、ほぼ実写にしか見えませんが、私がプロデュースするなら5人の体操のお兄さんお姉さんのうち画面右端からイケオジ代表で福山雅治、その隣に北川景子、真ん中にキムテヒョンその横が今田美桜（あんばんの主演）、左端が佐藤健似のAI画像のイケメン、イケジョのテレビ体操はどうでしょうか、爆発的に体操人口が増えるように思います。

その昔、わからないことは辞書を引け、それから本を読め、それでもわからないときは先生に聞け、学校で教えてくれないことは親に聞けという時代がありました。今やわからないことは、子ども親もグーグルで調べていたかと思っただけ、さらに最近ではAIの会話形式



のチャットで尋ねるようになりました。わからないことも見ている映像もAIやユーチューブに依存する世の中になり、虚偽と真実の見分けがつかなくなりました、親や先生の教えも必要としない時代が、やがてくると思うと悲しくなります。

今年頂いたカレンダーは紙代の値

上がりが影響しているのか2カ月づつの表記のカレンダーが多いように思います。ポーツとみていたらチョコちゃんに叱られますが、8月なのに7月の所を見ていて、曜日が合わないなあと勘違いしたり、7月の予定を8月の所に書いてみたりと、やはり中高年は1カ月ごとのカレンダーでないとは些細なミスをしてしまいました。

米騒動も大臣が代わって値上がり

のペースが落ち着いてきたように感じますが、弁当を持ってくる同僚で、最近ご飯が茶褐色で、その色がだんだん濃くなってきていたので、尋ねてみたら、もち麦と玄米入りのご飯だそう、お米が高騰して食べ盛りの子供も多い中、少しでも家計の

負担を減らそうとした結果、白米の割合がだんだん半部以下になり茶色のごはんになったとのこと、味は？と聞くと白飯に全然及ばない、我慢して体にいいのだと言いつつ聞かせられて、残りそうなのは塩こんぶを入れてお茶漬けにしたらなんとか食べられるということでした。

生産者のご苦労も理解したうえでなんとか三千円代に落ち着いてほしいと思います、店頭では普段見かけないカルローズ（カリフォルニア米）や台湾米が並んでいて一度は食べてみようと思います、古古古古古米よりは美味しいと思いますが、どんな味か興味があります、32年前の平成の米騒動の時に食べたタイ米は粘り気が全然なく小粒で口に合わなかった記憶があります。



今年も健康診断を受けました、なぜか身長は1センチ縮んでおりまし

た。視力も落ちてきて、測定の際は去年並みやなど自信を持っていましたが結果が送られてきてみるとガツクリでした。

心電図の測定の際は、パンイチになってベットに寝て全身に電線の先が吸盤の装置をあちこち貼られて落ち着いた状態で測定します、今年初めて「孫子老先生、もっと力を抜いてください!」「もっともっと!」としつこいぐらい若い看護師のお姉さんに切れ気味に叱られ、自分としては、パンイチでベッドに横になった時点で無抵抗で何も恥じらうこともなくなつたので、相当リラックスしているつもりでしたが、お姉さんの口調が強くなるにつれて、もはや自分ではコントロールできない



ほど心拍が乱れに乱れ、さいごに「モォーこのクソジジイ!」とトドメの言葉を聞いたような感じで検査を終えました。

昨年の胃の検査では検査台の上での体の反転や不自然なポーズで動くな!という、機械的な指示や発泡剤を飲みながらゲップを止める一連の試練に耐えられなくなったので、今年胃カメラに挑戦だ!と少し不安に思いつつ臨みました、数十年前にサバの骨が喉の奥に引っかかり、耳鼻科では取りにくい場所なのでウチでは無理!と、胃カメラのある内科に行けと言われ、違う病院で全身麻酔をして小骨を取ってもらった時以来、二回目の胃カメラです。

鼻の穴にゼリー軟膏のような麻酔薬を塗りベッドに横になり数分待つと、黒色のエンピツぐらいの太さのケーブルが来ましたが、ズンズン入ってくるのがわかります、年輩の看護師さんが「なんか出てきそうになったら、遠慮なく出してよ」と言いながら背中をさすってくれます、私は、よだれか胃液かわからないものが口から次から次へと、おえつとともに大量に出続けて、涙も止まらず、

ひよつとして体中の粘液が無くなるのではと不安になりました、前回の時は全身麻酔で寝ている間の出来事で覚えていませんが、今回は体中の感覚が反抗して受付できません状態で、脳みその中のもう一人のオレが「お前なんでこんなしんどいことをやるのだ、これだったらバリウムの方がマシじゃないか」と「オエオエ」となっている体を責め立てます。

やがて検査が終わり、先生の画像診断がすぐに始まりました、一緒に見てくださいと言われ、ほぼ焼肉屋で見るホルモンのような画像を確認していきます、「孫子老先生、異常ありません、まあまあきれいですよ、お大事に」と言われホッとしました、胃カメラの良い点は診断の速さと自分の内臓の中がすぐに見られるので、異常があれば早期発見、早期治療につながることを実感しました。

バリウム検査はそのあと下剤を飲みトイレに駆け込むことが半日は続くのでトイレが近くにないと困ります、また診断結果も表を見るまでわからなく、異常があっても再検査があるので二度手間のような気がしますが、今回胃カメラは鼻から入れたの

で検診後一週間は鼻が痛く、風邪をひいたような感じになりました、さて来年はどちらにしようか悩みます。

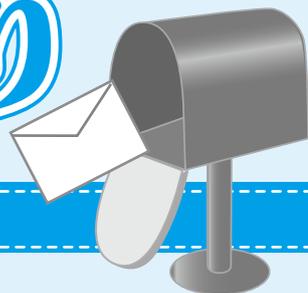
今年になり家の固定電話を廃止

しました、日常の通信は家族でもスマホのLINEでほぼ済みます、家の電話にかかってくるのは、自動音声のアンケート、詐欺のような電話、勧誘や営業の電話ばかりで発信で使うことはほぼありませんでした、みなさんも支障がなければ廃止の検討もされてみてはどうでしょうか、みなさまのご健康をお祈り申し上げます。

孫子老先生



センターだより



まごころケア旭川

心がほっこり感謝状

研修部長 鈴木 幸子

北海道も各地にてお祭りが始まり、初夏を感じる季節になってきました。

旭川市では、四年に一度開催される「全国お菓子博」が行われ、中でも菓子の工芸作品は「これがお菓子！」と驚きと楽しいデザインの作品が展示されていきましたし、全国各地から銘菓や新作スイーツ等千種類が集まる甘い祭典になり賑わっていました。

某テレビ局で「知られざる音楽の街」と旭川が紹介されていました。

その背景には、昭和四年から「北海道音楽大行進」というパレードが続いていて、利用者さんやヘルパーの中にも出演経験者もいらっしやいます。残念なことに今年も雷注意報が発令され、パレードは中止になりましたが、代表チームによるコンサートが旭川市民文化会館で行われ、日頃の成果を披露しました。

地域の話題や利用者さんが興味深い話を見つけてコミュニケーションを取りながら体調への気配り、変化

に気づきケアに頑張り毎月の研修に参加して、切磋琢磨しているヘルパーの日頃の活動に対し理事長から昨年度末に感謝状をいただきました。利用者さんへの心遣い等一人一人内容も違い「理事長どこで見たの？」と聞きたい内容で嬉しさと、照れくささがありました。気がわきました。

五月には、一人の研修部員が二か所の接遇研修会に参加し学習してきたことを講師になって全員で学びました。

六月には、外部講師を招いての日々変わる虐待防止研修を行います。

今年度も学びながら仲間同士支えあいながら元気で活動をしていきたいと思えます。

まごころケア塩釜

踊って下さり感激でした

志摩 弘子

日ケア全国大会 in 福島に、塩釜センターからは代表の門脇さんと、門脇さんの親世代の私たち後期高齢四人組の五人での参加となりました。

懇親会での出し物は、『よしこの塩釜』を踊ろうと決まりました。がこの四人揃って顔を合わせるのは月一回の定例会のときだけ。練習する時間もありません。こうなったら、各センターの方々皆さんに参加していただき、賑やかさで塩釜らしく盛り上げようと、門脇さんの運転で塩釜を出発しました

福島に到着。総会に出席し、二本松や国見センターの事例発表、福島センターのこれまでの歩みの報告を聞きました。どのセンターにも努力された歴史がしっかりあって頼もしく感じられました。

また、市川一宏先生の、介護保険だけでは足りないというところを補うのがまごころ活動で、それぞれに「まごころ」をしっかりと届けることが、今こそ大切という記念講演が、私たちには、とても力強く心に響きました。

そして、その後の懇親会での『よしこの塩釜』は最高でした。各センターの方々、兼間会長、そして市川先生も、皆さんいい笑顔で踊って盛り上げて下さり、ほんとうにありがとうございました。

全国大会の集いに参加したことを励みに、塩釜センター、これからも

坂井洋子理事長を中心に「まごころ」を届けられるよう活動していきたいと思っています。

まごころケア福島

NPO 法人まごころ・

どんぐり学童クラブ

支援員 三瓶 美智子

去る5月17日に開催されました「第33回日本ケアシステム全国大会 in 福島」には、たくさんの方々にご来県頂きまして誠にありがとうございました。

市川一宏先生の記念講演では、「ケアの原点は、足(当事者)に靴(ケア)を合わせることであり、靴に足を無理矢理当てはめるのでは、靴擦れになつてしまいます。」それぞれが生きていく歩みに寄り添うことの大切さを伺い、ケアの原点を認識させて頂きました。ありがとうございました。さて、ふとしたご縁から、保育の経験が全くなかった私が、施設主体であるまごころサービスNPO法人まごころ・どんぐり学童クラブに携わり始めたのが2020年4月からでした。

今年3月で丸5年になりました。その間に幾たびかの研修に参加させて頂き、また、支援員の資格も取得させて頂きました。

昨年4月からは、福島県学童協議会・同市学童協議会の役員も務めさせて頂いておられます。

研修に参加することにより、下校後の子どもたちの安全な環境、子どもたちが安心できる場所、支援員としての適切な態度、保護者の方々からの信頼の必要性、などについて教えて頂きました。

そして何より、子どもを理解することに関しては、自分の中で漠然と捉えていたものが、具体的言語化されたものを膨大に提供され、責任感と共に、新鮮な気持ちを持ったことを覚えていきます。

また、福島県連協、同市連協の会議や講演会等で他学童クラブの支援員の先生方と一緒にいる際には、子どもたちの環境向上のために、日々尽力されている姿に励まされて嬉しくなります。

そんな気持ちも日々の保育に還元できたらと思っています。

そして、生き生きと元気に遊び、創造力のある子どもたちからたくさんのもので受け取って、その気持ち

もまた還元できたらと思っています。

まごころサービス 国見センター

全国大会を終えて

藤田 学

5月17日～19日まで福島県で全国大会があり、去年と同様に参加させて頂きました。遠い所から足を運んで下さり、本当にありがとうございました。生から話を聞いて、今の自分の福祉に対する見方を見つめ直すと共に、色々な方と意見交換をすることで、新たな見方をする事ができて、有



意義な時間を過ごすことができました。今回は最初から最後まで他のセンターの方と行動を共にしたり、同じ部屋で話をする機会もあり、新たな交流を楽しむこともできたと思います。普段は、あまり四国の方と話をする機会もないので、様々な地域の特性を聞いたり、物の捉え方の違いも感じたり、そうした時間も楽しかったです。皆様から見ると、東北地方の景色は、どのように映りましたか？

国見センターで介護支援専門員として働き始めて一年が過ぎました。今回で学んだことを日頃の業務に生かすと共に、また来年もお会いできたらと思っています。

まごころケア国分寺

草抜きボランティアさんありがとうございます

センター長 川上 美佐子

桜の季節が過ぎ、さわやかな新緑の季節がと思っていたら、急に真夏日になったり、肌寒くなったりと、体温調整に四苦八苦の毎日です。温かくなるにつれてほたるの里の庭には一斉に雑草が勢いよく生え始めま

した。永年草抜きをしていただいている高齢のボランティアさんにまた負担をかけると心配していましたら、天の助け、七十代のボランティアさんお二人から申し出があり、早速草抜きにかかってくれています。

お一人は、わたくしの小学校からの同級生で、最近ご主人が亡くなり、自分の時間が増えたので、何か役に立つことがないかと考えていたところ、ほたるの里の草抜きに思い至ったそうです。彼女は、以前住んでいた家の傍にある、広い荒地地を自分で整備し、ターシャの庭を夢見て、まるで公園のような見事な庭を作った人です。朝五時から七時頃まで毎日草抜きをしていたそうです。そんな彼女のこれからの夢が、ここで実現できるとよいなと思っています。もうお一人は、一人暮らしになった為、娘さんと同居することになり、他県から引越されてきましたが、まだ、ご近所との交流がないため、草抜きボランティアの案内を見てお電話くださった方です。草抜きにもそれぞれのやり方があり三人ともに、自分の来たい日に来てマイペースでやりたいとのこと。草抜きの合間におしゃべりしたり、職員とあいさつを交わしたり、会の活動

に参加したりして楽しんでくれていきます。これからも末永くよろしくお願ひします。

まごころケア にこにこ三豊

令和七年度日本ケアシステム協会全国大会 in 福島に参加して

五月十七日からの日本ケアシステム協会全国大会に、にこにこ三豊・観音寺からは四名が参加しました。今回、参加された方に感想をいただきました。

にこにこ観音寺デイサービス 森 愛美

五月十七日から十九日まで、総会、小旅行があり参加しました。福島駅に到着すると、とても温かく迎えて頂きました。

市川先生の講演では「共生社会を目指す日ケアの実践」をテーマに、まごころケアの創設の原点から、背景・理念・ケアの姿勢など、たくさんのお話を聞く事ができ、デイサービスでの仕事をしていく中で、忘れていた原点や思いを考え直す事ができました。

懇親会では、色々なセンターの方達とお話しができ、すごく明るく気さくな方ばかりで緊張が解けました。新日本舞踊や、各センターの余興などもあり、あつという間のひと時でした。

翌日から、一泊二日での小旅行へは、三十一名の方と一緒に参加しました。バスに乗り、まずは銀山温泉散策へ。大正時代の風情を感じる建物が並んでおり、タイムスリップした様でした。

次に「東沢バラ公園」へ行きました。少し時期が早かったようで咲いておらず残念でしたが、一輪だけ五分咲きのバラを見つける事ができ嬉しくなりました。

お昼は「あいかも会館」でお蕎麦や天ぷらなど豪華な食事をいただき、女将さんに「あいかも音頭」も教えていただきました。

将棋資料館を見学し、宿泊する天童温泉へ！ 近くに道の駅とスーパーがあると聞いて、ご当地の物を探しに行き、沢山お土産を買う事ができました。庭園から流れ落ちる迫力のある滝を眺める事ができる露天風呂に入り癒されました。

最終日は山寺・芭蕉記念館へ行き、松尾芭蕉の遺墨や「奥の細道」の関

係資料を見ました。山寺を一望でき、静かで落ち着く所でした。

とても面白く元気なバスガイドさんの話を聞きながら、振袖地蔵を見国見センターの方おすすめのドライブコース（小坂峠）を通って、国見センターへ視察に行きました。道路拡張で移転する事となり、新しく建て替えたそうで、木を基調とした温かみのある空間に感じました。

厨房の見学もさせて頂きました。広々として作業もしやすそうでした。配食サービスで提供しているお弁当をいただき、とても美味しかったです。敷地の一面にある畑の野菜などもお弁当に入っているそうです。お昼過ぎにすべての行程を終え、福島駅に戻りました。

私は、県外の全国大会は初めて参加なのと、初の飛行機で、緊張と不安しかないまま行きましたが、到着すぐから、明るく気さくに声をかけて頂けたり、沢山の事を教えて頂き、とても楽しむ事ができました。

看護師 小林 静子

この度、日本ケアシステム協会全国大会 in 福島に汐見さん他スタッフ二名の方と同伴させていただきました。初めての福島旅行ということ、

日本地図を見ながら楽しみにしていました。皆に迷惑をかけてはいけな
いと思い、荷物もなるべく少なく、
杖を入れたり、足元の確認など、出
発日が近づくにつれ、体調管理にも
努めました。

十七日、高松空港で他の施設の方
と一緒に出発となりました。

東京で多数の人たちのなか、新幹
線に乗り換え、無事福島に着きまし
た。そこでは地元のスタッフの歓迎
を受けました。また、市川一宏先生
の記念講演に耳を傾け、その後、一
芸披露をしました。私たちは、きよ
しのズンドコ節を披露しました。終
わったあと盛大な拍手にホッとしま
した。特に汐見さんの素足で踊る気
力に拍手が大きかったです。各
施設の方の、趣向を凝らした一芸に
会場がわきました。

二日目は観光に行きました。銀山
温泉散策では、こんな所に温泉が？
と思ひながら見学しました。(テレ
ビのおしんとこの関わりがある事も興
味深かった)

道中、さくらんぼの木は沢山あり
ましたが、実はなく残念でした。で
も産直市では、フキやワラビなど四
国ではなかなか見ることが出来ない
ほど新鮮で太く、思わず手に取りま

した。

また、昼食の山間の茶そば屋さん
での思い出は深く心に残りました。
それは食後のこと、勢い余って店主
とともに、数名の方が踊り始めたこ
とです。楽しさ、嬉しさを素直に表
現できる福島の方々の人柄が滲み出
ている風景でした。

三日目は、芭蕉の道をドライブし
て、国見センターの弁当をいただき
ました。

それから夜の飛行機に乗り、高松
空港にズシンと着地した時、楽し
かった三日間、そして同行したス
タッフの方に感謝の気持ちが生まれ
ました。

まごころケア 屋島やすらぎ

こいこいクラブの花見会

猪塚 とも

屋島やすらぎこいこいクラブでは
まいとし恒例のお花見会をしまし
た。

テレビの開花予報を見ながら日程
を決めます。今年はやすらぎの近く
の成田山にいきました。

満開の桜の下で散歩をしたり、記
念撮影をしたりしました。

楽しみにしている花見弁当はやす
らぎに戻ってから頂きました。皆の
大好きなちらし寿司弁当をいただき
ました。食事の後は楽しいおしゃべ
りタイムです。日常に起こった出来
事を何気なくしゃべり、みんなが聞
き流してくれる、そういう肩ひじ張
らない場です。参加者も少なくなっ
て、開催回数も減ってきていますが
屋島やすらぎにとつてなくてはなら
ない場です。これからも続けていき
たいと思っています。

私事で恐縮ですが、今年度の総会
をもって代表を退任いたしました。
平畑前理事長から受け継いで十六
年。周りの皆さんに助けられ支えら



れながらの日々でした。各センター
の皆様にも大変お世話になりました。
次期代表、生田涉同様、これか
らも屋島やすらぎをよろしくお願
いいたします。

まごころケア ぽっかぽか川之江

居場所と手作り、人と人との繋がり

鎌倉 裕基

いつもありがとうございます。5
月の日本ケアシステム協会全国大会
では、本部、事務局の方々、そして
現地でご準備下さいました方々、本
当に感謝申し上げます。まだ全国大
会の余韻がありまして、胸の内を外
側に出し、文章で表現するのは難し
いところがありますが、少しでもだけ
の旅で感じたことを書きたいと思
います。

旅の始まり。東京駅で福島行き新
幹線へと急ぐ中、お仲間4人の方の
姿が見えず、不安と焦りが胸を締め
付けました。しかし、この緊張感の
先には、心温まる出会いと忘れがた
い体験が待っていました。

総会で耳にしたルーテル学院大

学・市川先生の「居場所が必要」という言葉は、僕の心に深く刻まれました。僕にとつての居場所、(香川県)高瀬天然温泉のサウナが改修工事で閉鎖されている今、その存在の大きさと居場所を持つ安心感の大切さを噛みしめています。再開の日を待つ気持ちは、希望の光となっています。

旅の中で出会った人々の温かさは、何にも代えがたい宝物です。エレベーターで微笑みながら「お先にどうぞ」と譲ってくれた瞬間、小さな優しさが胸にしみました。地元の名味、美味しい食べ物やここでしか手に入らない特産品を熱心に教えてくれた方、美味しいお酒のあてを選んでくれた先輩、心の奥にしまっていた悩みを静かに聞いてくれた大先輩。「見てくれている人はいるんだよ」という一言が、心の支えとなりました。

国見センターさんで出会った手作りのお弁当も、ただ「食べる」ということだけではなく、それ以上の意味を持っていました。365日、心を込めて作られるお弁当は、食べる人への思いやりと地域の絆を育んでいます。その温かさは、味覚だけでなく心にも深く届きました。

全国には、心でつながる仲間がいる——この事実がどれほど力強いこ

とか。『愛・忍耐・技術』の理念のもと、今という瞬間を大切に、出会いと縁に感謝しながら、これからも心を込めて歩いていきたいと思っています。



まごころケア西春日

脱水について

末澤 秀貴

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。このところの異常気象で、暑さに苦しめられている高齢の方が増えており、入院や施設入所を余儀なくされる方もいらっしゃいます。

今回は、脱水について、お話ししたいと思います。

脱水は、のどの渇きなどの自覚症状以外は、重篤な状況に陥るまで気づかないこともあります。まず、一番注意しなければいけないことは、脱水を起こさないことです。しっかりと一日に必要な水分補給ができていれば、たいていの場合、脱水を回避することができそうですが、持病や加齢に伴う衰えで、そううまくいかなかったのが、高齢者の悩みのひとつです。水分が足りていないなと思っても、若い人たちのようにガブガブ一気に飲むことが難しいので、普段からこまめに摂取する必要があるのですが、めんどろだ、トイレに頻回に行きたくないなどの理由で、無意識に水分を控える傾向にあるのが、高齢者の特徴のひとつです。

また、持病についても考えなければなりません。たとえば、高血圧症や心臓の機能低下などで、水分制限や、塩分制限が必要な方です。夏に身体から奪われていく水分を補うために、ただ単に水分補給をすればよいというわけではなく、塩分やミネラルも汗や尿で奪われているので、一緒に摂取しなければならぬことは、だいたいの方がご存じと思います。

ですが、塩分制限があるため、必要な塩分を補うことが難しい方がいるということですが。身体の中の塩分濃度が低くなると、疲労感や食欲不振といった症状が起こり、極端に低くなると、低ナトリウム血症という脳の病気を発症する恐れもあります。また、腎機能が低下している方は、利尿剤の服用や、水分制限を受ける方もおり、脱水を引き起こすひとつの要因になることがあります。

では、夏場だけでも、塩分を多く摂った方が良いかというと、一概にそうとも言えません。日本人は、食生活の中で、普段から塩分を取りすぎている傾向にあるのも事実です。そのため、わざわざ脱水回避のために、より多めに塩分をとる必要が無いと言える方もいらっしゃいます。脱水を起こさないような空調管理が行われている環境にずっといられる方は、問題ないのですが、ほとんどの方が、そういうわけにはいかないでしょう。脱水は起こしたくないが、どうしたらよいか分からないという方は、夏場をむかえるにあたって、今受けている水分や塩分の制限をどの程度緩和すればよいか、必ず主治医などに相談してみてください。

令和7年度 日本ケアシステム協会 第33回 全国大会イン福島

令和7年5月17日(土)～19日(月)



令和7年5月17日(土)、福島市の福島グリーンパレスにおいてNPO法人日本ケアシステム協会、令和7年度第33回全国大会が開催されました。コロナ明けの昨年に続いて、対面で開催し、全国のセンターから82名が参加しました。

大会は兼間会長の挨拶の後、地元金子恵美衆議院議員からの祝辞を披露したのち、理事会・総会が開催され、令和6年度事業報告など下記議案について審議し、それぞれ承認可決されました。

その後、会員以外の一般住民の参加を含め約150名の参加のもと、ルーテル学院大学名誉教授、市川一宏先生から「共生社会を目指す日ケアの実践」と題し記念講演があり、

続いて地元福島県内の国見、二本松、福島市の3センターからこれまでの活動のあゆみなど事例発表があり、今後の課題などについて意見交換や質疑応答、専門家の貴重なご意見をいただくなど有意義な研修会となりました。

その後、午後6時から別会場に移動し夕食をとりながら情報交換・懇親会を実施しました。各センターの紹介や近況報告、また元氣あふれる出し物が披露され盛り上がりました。

翌日18日(日)～19日(月)は山形県内の名所・旧跡・観光地やまごころ国見センターの給食センターの見学など小旅行を実施しました。

昨年、高松市における対面での開催に続き一年ぶりの開催で、会場にいたるところで、各センターのみなさまが再会を喜ぶ笑顔が見られました。

◆総会(理事会、総会) 議案

第1号議案 令和6年度 事業報告

並びに活動決算報告

第2号議案 令和7年度 事業計画

並びに活動予算
第3号議案 令和7年度 会費・保険料について
第4号議案 役員の変更
第5号議案 定款の一部変更について

理事総数5名のうち書面表決を含め5名、また正会員18センター長のうち14センター長の出席で、理事会、総会いずれも定足数の要件を満たしていることが報告され、各議案について審議のうえ可決承認された。

【令和7年5月17日(土)】理事会・総会
【瑞光の間】
・受付 13:00～14:00
(2階入口ロビー)
・理事会・総会

・記念講演会(市川先生の記念講演)
15:10～16:10
・事例発表
16:10～16:40

まごころサービシ国見センター
紺野センター長
まごころケアサービシ二本松センター
西間木センター長

まごころサービス福島センター

須田理事

・質疑応答・コメント

16:40～17:30

・懇親会【孔雀の間】へ移動

18:00～20:00

情報交換・懇親会

◆【令和6年6月17日（月）～18日

（火）午前】 小旅行

・山形県内の名所・旧跡・観光地や
まごころ国見センターの給食セン
ターの見学



『共生社会を目指す日ケアの実践』

～介護の原点は、それぞれが生きていく歩みに寄り添うこと。
それぞれに「まごころ」を届けること～

ルーテル学院大学名誉教授 市川 一宏

市川 一宏 先生プロフィール

2002年4月～2014年3月・2018年4月～2020年3月 ルーテル学院大学学長
現在、ルーテル学院大学名誉教授

【学歴】早稲田大学法学部、日本社会事業学校研究科、東洋大学大学院社会学研究科社会福祉専攻博士前期課程・後期課程、ロンドン大学ロンドンスクールオブエコノミクス (LSE) 特別研究員 2002年～2004年

【専門分野】社会福祉政策・地域福祉・高齢者福祉

【研究テーマ】行政、社協、民間団体における計画の策定、実施、評価および調査研究、人材育成研修等に多数関わる。全国各地の実践から「地域の福祉力」を学び、各地域に合った地域福祉実践を研究テーマとする。特にコロナ禍にあって、希望あるまちづくり、共生型社会づくりを目指し、地域ケアの再建に挑戦。



令和7年5月17日、福島市において開催された令和7年度特定非営利活動法人日本ケアシステム協会第33回全国大会において行われた市川一宏先生の記念講演より。

はじめに ありがとうございます

私がまごころサービスに出会ったのは、1980年代の後半でした。日本キリスト教社会福祉学会の大会で兼代会長にお会いし、また兼間さんの教会が私の勤めるルーテル学院大学と同じ系列の教会であり、親しくして頂きました。講演のご依頼があり、高松空港に着いた私を、兼間さんをお迎えに来られ、私が麺を好きなことをご存じで、うどんを食べに連れて行って下さいましたことを思い出します。

1989年には、ミネルヴァ書房から黒田輝政・兼間道子編『在宅ケアの展開』が出版されましたが、私も高松での講演をまとめました。

その後、香川県内の団体で講演や研修をさせていただき、また活動のご相談にのってまいりました。特に福島センターの須田さんから、ご講演のご依頼を受けたり、またセンターが運営する施設を訪問させていただき、介護保険制度がまだ影も形もない平成3年、「愛・忍耐・技術」を理念とし、「地域に根差した人間ケア」を提供し、すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくりに寄与

することを目的とする。ことを掲げて設立された日本ケアシステムの創立の精神を継続しておられる姿を学んでまいりました。

I 創設時のまごころ

(在宅福祉サービスの転換) **△背景**

- ①在宅福祉サービス利用者の多様化量的にも、質的にもサービスの利用者の範囲が広がったこと。
- ②在宅福祉サービスの内容の多様化家族が中心の担い手となつていたケアを、1990年、国によるゴールドプランは、ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイの3本柱に移行させた。
- ③在宅福祉サービス提供主体の多元化在宅福祉サービスの提供者として、社会福祉法人や行政が中心であった仕組みに、まごころが参入した。

△理念

「まごころサービスは、その名称に示すとおり、私たちは出生から成人まで、親の深い愛情に育まれ、その庇護のもとに学業に励み、成人となった△省略▽老いて起居も思うにまかせない状況になった老親に対する感謝と愛情から出るまごころをこめた介護こそ大切であり、それは介護技術を超えたものである。自



分を低くして、要介護者と同一線上に自分をおいて、お世話をさせていただくという姿勢である。」兼間氏

△ケアの姿勢

「ケアする側が老いや死をうとむ気持ちが強いつき、本当のケアはできない。人は生きてきたように死ぬと言うが、老いて病むほどに生かされたように死んでいく現実がある。ケアする側の生き方、死に方が、ケアされる側の生き方、死に方に重なってくるのである。ケアする人たちが、そこで、自らの生き方、死に方を見つめ直すことが、ケアの出発点である。」黒田氏

(黒田輝政・兼間道子編『在宅ケアの展開』ミネルヴァ書房1989年)

II 今日の地域問題の顕在化 1 急激な社会的変化『2025年問題』

- ・戦後のベビーブーム世代が75歳となり医療や介護の担い手不足が懸念
 - ・認知症高齢者は、約320万人
 - ・世帯主が65歳以上である世帯の約7割が「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」
- ### 2 関係性の危機
- ・厚生労働省の令和5年度厚生労働白書によると、定年退職で仕事を辞めた人たちが、その後引きこもりになるケースが多い。
 - ・警察庁の集計によると自宅でもれにも看取られず亡くなっている方が1日180人の上っている。

3 経済的危機

令和2年春から続くコロナ禍で孤立を深める人、DV・虐待など家庭に問題を抱える人が顕在化。コロナ禍以前から生活困窮のおそれがあつた人や脆弱な社会基盤のもとで暮らしていた人がいかに多く存在していたかを浮き彫りにした。

4 認知症高齢者の増加

認知症とは、アルツハイマー病その他の神経変性疾患、脳血管疾患、その他の疾患により日常生活に支障が生じる程度にまで認知機能が低下した状況を言うが、そのような高齢

者の増加がみられる。

III 今日の福祉政策の動向

1 地域包括ケアシステムについて考える

元気な高齢者から重度の要介護高齢者に至る各段階にに応じて、住み慣れた地域で、人生の最期まで暮らし続けることができるよう切れ目のないサービス提供体制を目指す。

介護や生活の不自由さ、医療の必要性に直面した場合に1人で、また家族だけで抱え込まないで、地域の専門機関、専門職に相談して頂きたい。当事者と家族に求められている求援力、孤立を避ける力。

2 介護予防・孤立予防について考える

人は年を取ると体の力が弱くなり、外出の機会が減り、手助けや介護が必要となつてきます。心と体の働きが弱くなつてきた状態をフレイルと呼びます。

フレイル予防は、より良い高齢期の生き方を目指すため大切で、その3本柱は次のとおり。

①栄養(朝、昼、晩のバランスの良い食事、口内の清潔)

②運動(ウォーキングや水泳などの運動、体調や体力に合った運動の継続)

③社会参加(外出で体のリズムを整

える、趣味や習い事の楽しみ、人との繋がりで脳に刺激を)

3 認知症のケアから家族の介護体制を考える

3 世代世帯の事例：夫85歳＝本人、妻82歳＝主たる介護者、娘60歳、娘の夫60歳、孫2人。

認知症：アルツハイマー型認知症。意思言語化は不可能。喜怒哀楽感情あり。

疾病状況：末期大腸癌、肝臓に転移。

介護体制：在宅、娘が協力。全面介助、本人の抵抗はなく、ホームヘルパーも週に1回訪問。大柄な体格なので着替え、おむつ交換などは娘の夫や孫たちも手伝い。

介護意欲は旺盛で、長く在宅で介護、最後まで在宅で看取りたいとの強い意思がある。医療面での不安が強かったが、医師の診療とアドバイスにより終末ケア計画が明確にされており、問題時の医師のバックアップが介護意欲を支えていた。

△認知症に関してV情報提供

認知症対策基本法は、認知症の方の自己実現を重視。市民セクターよこはまの「まちかどピクチャーズ」の実践報告会では、当事者が認知症カフェ等をインタビューし、映像にまとめ、活動の意義を訴えました。医師より認知症であると伝えられ、

シヨックを受けた当事者が、苦悩の中から立ち上がり、葛藤しながら一歩一歩、歩んでいく姿を見てきました。でも、当事者の方々は輝いていた。

4 生活に関する小括

孤独は避けられないが、孤立は避けなければなりません。「孤独」は主観的概念、ひとりぼっちと感じる精神状態を言い、「孤立」は客観的概念、社会とのつながりのない、少ない状態を言います。孤独・孤立の感じ方、捉え方も人によって多様で、個別の支援が必要です。

自分らしく生きたいと葛藤し、人間としての誇りを守り、安心する心の拠り所を求めさまよう、そうした人生を一步一步積み重ねて生き抜く方々とともに歩む大切さ。

介護「すべき」から、どうすれば良い介護が「できるか」という話し合いを優先させること。絶対的な正解なんてありません。

IV 私が目指したい歩み

1 自らの働きを問い直す

コロナによってさまざまな活動が止まり、その結果、各地域福祉活動、サービスが果たしてきた役割がいかに大切であったかが明らかになりました。ならば、何としても関りを再生するか、それに代わる行動を生み出していかねばなりません。

・老いについて考える。
老いについてひとり一人がどのようにして受け止め対処するか、心の問題として生き方と態度の問題として考える。

・100歳まで生きる方の特徴：個性はありつつも、ある程度共通することの一つは、幸福感が高く、自分の人生を肯定的にとらえる（ポジティブシンキング）人が多い。少しづつでも体を動かし、家の階段を上り下りして食卓へと向かう、調子が良ければ家の周りを散歩する、自分の洗濯物をたたんで片付けるなど、出来る範囲での日常生活を続けています。

・お金を失うと（生活）の危機、名誉を失うと心の危機、希望を失うと（存在）の危機。この（ ）の中に、ふさわしい用語を入れてください。援助の原点が示されています。

・『人生に停年はない』
高齢期は喪失の時代であると言われる。しかし、感動する心と希望をもって、明日に向かって今を生きる方々の歩みに私は勇気づけられる。誰にも将来を見通すことはできない。過去の後悔に押しつぶされそうになる。

しかし今を生きることによって、過去の事実は変わらなくとも、過去の意味が変わっていく。だから将来に向かって日々の歩みをとめてはならない。そして、最後の時、支えて



くれた家族や人々に感謝することができたなら、それは人生最後でもっともすばらしい証し。感謝する人の命が光る。看取る人びとの想いがその人の命を通して光る。このような人生に停年はない。（2006年12月9日『キリスト新聞』より再構成）

2 地域、地域ケアのあるべき姿を描く

互いの存在を認め合ったコミュニケーションがいたるところで寸断されていることが如実に示されてきました。ならば、今こそ、互いの存在を認め合い、支え合う地域を描いていくことが大切になっていきます。

・互いの違いを尊重する社会
・協力し合って問題を解決していく社会
・明日への希望を実現する社会
・お互い様の心が根付いた社会

3 協働した働きを始める

これからの勝負は、互いに支え合うために様々な方法を開発し、今まで築いた協働の働きを強化すること。孤立を防ごうと活動している人自身が孤立してはなりません。

孤立、貧困の生活環境が地域に広がり、また解決が難しい問題に直面し、様々な専門職が対応に苦慮している今、それぞれの地域に存在する宝、すなわち社会資源が掘り起こされ、協働して取り組むことが大切な時期になっています。

また、そもそもそれらの問題は、決して特別な問題でなく、地域住民の生活に関わる地域全体の問題です。

むすびにかえて『命の輝き』

私は、先輩の方々の人生を生き抜いた姿から、老いていくことは、喪失ではないことを学んでいます。体力が低下し、大切な配偶者や友人を天国に送り、悲しさに打ちひしがれる。しかし、それは喪失ではない。一枚一枚、与えられたものがはがれていくことによって、それが包んでいた尊い存在の光、命の輝きが見えて来るのです。社会福祉の原点は、そこにあると考えています。

令和7年度日本ケアシステム協会 第33回 全国大会イン福島

国見・二本松・福島センターからの事例発表

福島市での日本ケアシステム協会全国大会において、行われたルーテル学院大学名誉教授、市川一宏先生の記念講演に続いて地元福島県内の国見、二本松、福島の3センターからこれまでの活動のあゆみなどについて事例発表があり、意見交換や質疑応答、専門家の貴重なご意見をいただきました。

◆NPO法人まごころサービス国見センター センター長 紺野 徹

発足経緯

平成12年 4月	まごころサービス国見センター設立 NPO法人認可・日本ケアシステム協会入会
平成13年 4月	地域の茶の間「憩いの場」開設
平成14年12月	訪問介護事業所「NPOまごころ介護」認可
平成15年11月	配食サービス提供開始
平成18年 9月	福祉有償運送認可移送サービス提供開始
平成19年 4月	子供緊急サポート提供開始
平成20年 4月	居宅介護支援事業所「NPOまごころ支援」認可
令和2年12月	町道新設に伴い事務所移転新築



配食サービスの始まり

平成15年の配食サービス開始以来、お一人ひとりのこれまでの生活を大切に考え、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らせるよう食生活を通じてサポートしている。初日はたった1食の注文で本当に不安な船出でした。

配食サービスのご利用者がお亡くなりになった後も、お弁当の注文が続くので不思議に思っていたところ、ご家族から「生前、本人がとても楽しみにしていたので、49日の法要までお供えをしていた」とのこと、たいへんうれしく思った。おかげさまで、昨年度は過去最高の4万3千3百54食を提供した。

◆NPO法人まごころケアサービス二本松センター センター長 西間木 俊一

発足経緯

平成17年10月	日本ケアシステム協会入会
平成17年11月	小規模多機能型施設「桑原さんち」を開設
平成18年 3月	NPO法人認証
平成18年 5月	介護保険通所介護事業認可
平成18年 8月	介護保険訪問介護事業認可
平成19年 3月	簡易宿所営業許可認可
平成20年 2月	基準該当生活介護事業認可
平成21年 4月	居宅介護、重度訪問介護事業認可
平成22年 1月	くもん学習療法開始
平成23年 9月	生活介護事業認可(みんなの翼)
平成23年10月	同行援護事業認可・居宅介護支援事業認可
平成28年 4月	給食事業開始(暖家)
令和 7年 3月	「桑原さんち」閉所



NPO法人としての運営方針

定款に謳っているとおり、小規模多機能型、並びに共生型の運営を目指しており、その運営を通じてまちづくりに貢献したい。

今後は障がい者施設「みんなの翼」を現在の生活介護の共生型の施設に加え、放課後等デイサービス事業やホームヘルプサービス事業、ショートステイ事業等を加えて小規模多機能型としていきたい。また、枠外事業としてまごころホームヘルプ事業や移動支援事業、身元保証サポート事業等にも取り組みたい。

◆NPO法人まごころサービス福島センター 理事長 須田 弘子

発足経緯

平成 3年 7月	日本ケアシステム協会全国ネットの記事と出会い準備会発足
平成 4年 4月	まごころサービス福島センター発会式
平成 4年 5月	第1期ケアワーカー養成研修開始～第17期 700余の研修修了生
平成11年 8月	まごころサービス福島センターNPO法人格認証
平成12年 4月	介護保険参入まごころ介護サービス(訪問介護)
平成16年12月	「まごころケアホーム高湯の里」完成
平成17年 2月	介護保険参入 まごころケアホーム高湯の里(地域密着型通所介護)
平成22年11月	介護保険参入まごころケアプラン居宅介護支援事業(居宅介護)
平成24年 4月	復興支援「元気虹の和プロジェクト」(3年間)
平成27年 4月	どんぐり学童クラブ開設
平成28年 7月	こども食堂(みんなの孫子老食堂と改名)開催85回
平成28年10月	まごころケアホーム「あかりの里」完成
平成29年 4月	第1回みんなの花カフェin孫子老広場(5回開催)
令和 4年 4月	まごころサービス福島センター設立30周年記念事業開催

地域に開かれた活動拠点の事業について

- ・人材育成、実習、ボランティア、見学の受け入れ
- ・介護、育児現場からの事業創出
- ・他団体との連携から事業展開

地域共生社会を目指すためのNPO法人としての役割

- ・他団体とのネットワークの必要性
- ・事業創出のための人材、資金の工夫
- ・地域活動へ共感、協力、支援が得られる創意工夫

誰もが安心して暮らせる地域づくりについて

- ・まごころサービス、困ったときは「おたがいさま」の精神で協働
- ・地域における様々な課題に対処

「大阪・関西万博2025」に行ってきました

こんにちは。私は京都府の大学に通う大学生です。今回は、今話題の大阪・関西万博について、実際に行ってみた感想や魅力を少し紹介したいと思います。私は4月、毎日新聞の展示ブース「視覚障害者の世界を体験する」にてボランティア案内係として大阪万博に参加しました。

開幕当初は、一部パビリオンの工事が遅れていたり、チケットの販売数が目標に届いていなかったりと、やや不安なスタートにも見えました。しかし、実際に現地を訪れると、やはり万博にはワクワク感があります。入場してすぐに見える大屋根リングの迫力は想像以上でした。賛否両論ある大阪万博ですが、世界各地で分断が続く今、各国の人々が笑顔で交流する様子を見て、「万博には、国や文化を超えて共に生きるという問いを投げかける力がある」と感じました。まさに、同じ地球という屋根の下でどう共存するのかを考えるきっかけになりました。

さて、以下にチケットの購入方法とポイントをいくつか書いておくので参考にしていただけたいと思います。



購入の流れ

ステップ1：スマホやパソコンで大阪万博公式サイトにアクセス

ステップ2：万博ID（EXPO ID）を作成

ステップ3：IDでログインし、デジタルチケットを購入（QRコードでチケットが発行されます）

ステップ4：来場日時を予約

当日：発行されたQRコードをゲートで提示して入場！

※事前に知っておくべきポイント※

- ・会場内はキャッシュレス決済のみ！現金以外で払えるように準備しましょう
- ・事前予約（公式サイトにて）をしないと入場できないパビリオンがあります！前もって行きたいパビリオンをチェックしておきましょう
- ・全てのパビリオンを1日で回るのは難しいため、気になるパビリオンに目星をつけておくのがポイントです。そうすれば、効率的に興味のあるパビリオンを回ることができます！

最後に、私からのオススメです。訪れた際にはぜひ大屋根リングに登ってみてください。大阪の街と海、そして広がる会場を一望できます（私は夕方が好きです）。そこから見える景色は、ただの観光以上のものを与えてくれます。「今、自分は何を感じ、何を考えるのか」に気づかせてくれる不思議な力があります。

大阪・関西万博には、課題もあるかもしれませんが、ですが、それ以上に得られる学びや発見、そしてワクワクの体験がきっとあると思います。開催は10月13日まで。ぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。



全国まごころケアネット
 特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会
 まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jmss@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
孫子老ケアサービス 仙台泉センター	〒981-3137 宮城県仙台市泉区大沢1-5-1イオンタウン泉大沢ポコアポコ	pocokei@yahoo.co.jp	090-6622-7122	
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂宇南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0904 福島県二本松市郭内1丁目10番地	tubasa8556@jk2.so-net.ne.jp	0243-24-1535	0243-24-1535
まごころサービス 国見センター	〒969-1761 福島県伊達郡国見町藤田日渡四18の1	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@leto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市中区関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	houmon@npa-ajisai.net	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	mailka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころケア西春日	〒761-8051 香川県高松市西春日町1510番地1	keisuke82kasai@gmail.com	087-869-1165	087-869-1195
まごころケア ぼっかぼか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	kamayan@cosmostv.jp	0896-56-2623	0896-77-5761

「日本ケアシステム協会」会報

令和7年7月1日 発行No.172

発行所 〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL087-815-0771 FAX087-815-0773
 URL <http://www.jp-care.gr.jp>
 編集発行人 兼間 道子
 郵便振替 口座番号 01610-0-92689
 印刷所 (株)成光社

まごころケア高松
 NPO法人 長寿社会支援協会

〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL087-865-8001 FAX087-865-8039
 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp
 URL <http://cho-jyu.info/>